



取 付 説 明 書

TOYOTA

LAND CRUISER

PRADO

BLITZ

この度は弊社製品を御買い上げ頂き、誠にありがとうございます。

お願い！！

- この取り扱い説明書には製品を使用する際と自動車に装着する際の注意事項が詳しく記載してあります。
よくお読みになって、よく理解した上で作業し、正しくご使用下さい。
- 本書は、いつでも取り出して読めるように車内に大切に保管しておいて下さい。

装着可能車種と製品の仕様

- ☐車 名：TOYOTA LAND CRUISER PRADO
- ☐型 式：CBA-TRJ150W
- ☐エンジン：2TR-FE
- ☐ミッション：6AT 4WD
- ☐年 式：2017 年 9 月～
- ☐製品名称：BLITZ COMPRESSOR SYSTEM
- ☐製品番号：10197

製品についてのご相談先

製品についてのお問い合わせ連絡は、お電話または FAX にて下記宛にお願いします。

- 連絡先：(株)ブリッツ サポートセンター ■TEL：0422-60-2277
- 住 所：東京都西東京市新町 4-7-6 ■FAX：0422-60-0066

はじめに確認して下さい！

- ・純正品のホースやバンド等の部品に変形、割れ、ひび等の劣化が生じていたら
純正品の新品に交換して下さい。
- ・作業の際に冷却水を抜き取る為、予めトヨタ純正品の冷却水(トヨタ純正スーパーLLC)をご用意下さい。
規定量 8.1L
※冷却系は密閉式のため、全量抜ける事は殆どありません。
- ・燃料系と冷却系部品を取り外します。予め下記の純正ガスケットをご用意下さい。
※本製品には同梱されていません。また、下記純正品番は 2020 年 8 月 1 日現在のものです。

純正品番	品名	参考価格(税別)	必要数
17177-75070	ガスケット(インテークマニホールド～E/G ヘッド)	¥760	1
22271-75070	スロットルボデーガスケット	¥310	1
16325-75011	ウォータインレットガスケット No.1	¥760	1
08889-01005	トヨタ純正スーパーLLC 2L	¥2,680	上記
08889-01001	トヨタ純正スーパーLLC 18L	¥24,200	

重要事項の確認

- ・ この製品はノーマル車輛を基準に製作されています。
ノーマル車輛以外に取付した場合は、製品の機能・性能及び安全性・耐久性が下がる場合があります。
- ・ 製品装着時は、異物が混入しないよう、十分に注意をして下さい。
異物等が混入すると最悪の場合エンジン破損の原因になる場合があります。
- ・ 純正部品の取付、取り外しの作業はメーカー発行の整備要領書を
読んでから行って下さい。整備要領書がお手元ない場合はメーカーにてご購入下さい。
- ・ 走行前には、オイル・冷却水・排気ガス等の漏れがないか点検を行って下さい。
漏れのある状態での走行は、車輛火災やエンジン破損等の恐れがあり危険です。
- ・ このキットはハイオクガソリン指定となります。
レギュラーガソリンを使用しますとノッキング等を発生させ、最悪の場合エンジン破損の原因になる場合がありますので、
必ずハイオクガソリンを使用して下さい。
燃料タンクのガソリン入れ換え作業は危険を伴いますので、特に火気に注意して下さい。
- ・ 本キット内部品の加工・分解・改造は絶対に行わないで下さい。
場合によっては燃調（セッティング）が変わり、最悪の場合、エンジン破損の原因になる場合があります。
- ・ 本キット内のフューエルコントローラー、エアフロコントローラーは、絶対に分解・改造はしないで下さい。
分解・改造した場合、燃調（セッティング）が変わり、最悪の場合はエンジン破損の原因となります。

警告

この表示を無視して、誤った取り扱い・作業を行うと、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される危険の状況を示します。

- ・ 換気の良い場所で取付作業を行って下さい。
換気の悪い場所で作業を行うと、爆発・火災の原因となります。
- ・ バッテリーのマイナス端子をはずしてから、取付作業を行って下さい。
配線のショートなどによる火災、電装部品の破損、焼損の原因となります。
- ・ コネクタを外す場合、ハーネスを引っ張らず、必ずコネクタを持って取り外して下さい。
ショートなどによる火災、電装部品の破損、焼損の原因となります。
- ・ この製品に異音・異臭などの異常が生じた場合には、製品の使用をすみやかに中止し、
販売店または弊社までお問い合わせ下さい。
そのまま使用すると、感電や火災、電装部品の破損の原因となります。
- ・ この製品の取付時に、エンジンルーム内の電気配線や配管類を傷つけない様
注意して下さい。ショート等による火災、電装部品・エンジン・車両の破損の原因となります。
- ・ 部品交換は自動車が不安定な状態で作業せず、必ず自動車作業専用リフトを使用して、
安全に作業して下さい。やむをえずガレージジャッキを使用する場合は、必ずリジトラックを
併用して安全に作業して下さい。車載ジャッキでの作業は危険なので絶対に行わないで下さい。

注意

この表示を無視して、誤った取り扱い・作業を行うと、人が軽傷または中程度の傷害を負う可能性が想定される危険な状況、および物質損害の発生が想定される状況を示します。

- この製品の取付は、必ず専門業者に依頼して下さい。
取付には専門の知識と技術が必要です。
- この製品を装着前に落下させたり、装着時に無理な力を加えないで下さい。
作動不良や空気漏れの原因になる場合があります。
- この製品の取り扱いは慎重に行ってください。落としたり強いショックを与えると、事故、火災、感電、電装部品の破損、焼損の原因となります。
- エンジンルーム内の温度が下がってから、作業をはじめて下さい。
エンジン本体、ラジエター、排気関係の部品は高温になり、火傷の恐れがあります。
- 定期的に点検を実施し、十分に注意してご使用下さい。
この製品は耐久性を考慮して、厳選された材料を使用し、厳重な社内品質管理のもとに製造されていますが、車両の使用条件などにより、耐久性が落ちる事があります。
- 取付作業のために一時的に取り外す純正部品は、破損・紛失しないように大切に保管して下さい。
- 当社は取付作業による物的損害の責任を負うことはできませんので、慎重に作業を行ってください。
- ボルト・ナット類は、適切な工具で確実に締め付けて下さい。
必要以上に締め付けを行うと、ボルトのネジ部が破損します。

！作業時の注意事項！

ボルト・ナットの締め付けすぎによる破損にご注意下さい。

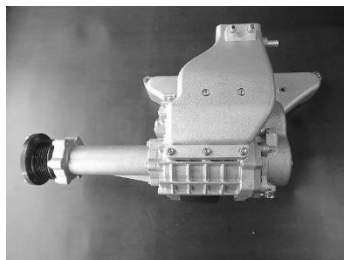
過剰な締め付けによる破損につきましては、弊社は一切の責任を負いません。

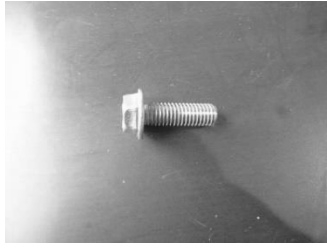
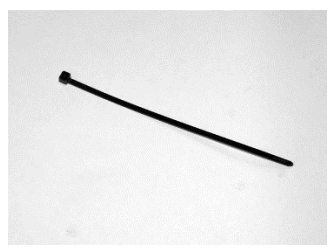
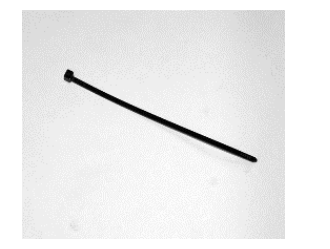
	標準トルク (N・m)	標準トルク (kg・m)
M4	1.5	0.15
M5	3	0.3
M6	5.2	0.5
M8	12.5	1.3
M10	24.5	2.5
M12	42	4.3

※上記数値は参考標準値です

また、本キットに同梱されているステンレスのボルト・ナットと
大きな熱を受けるボルト・ナット（エンジン本体に取付るもの等）
には焼付き防止剤を塗布してから取付を行ってください。

パーツリスト

1. コンプレッサ本体	× 1	2. ウォータウトレットパイプ	× 1	3. ベルト 7PK2500	× 1	4. フォーリーブラケット	× 1
							
5. アイドルローリー	× 1	6. アイドルローリーカバー	× 1	7. アイドルローリーカラー	× 1	8. ステ-C	× 1
							
9. ステ-D	× 1	10. ステ-F	× 1	11. ステ-G	× 1	12. ホースプロテクター	× 1
							
13. Φ8 ホース	× 1	14. ホースバンド	× 1	15. フランジ付 M8×15	× 4	16. 六角穴付 M10×95	× 2
							
17. 平座金Φ10	× 2	18. フランジ付 M10×50	× 1	19. フランジナット M10	× 1	20. フランジ付 M8×25	× 1
							

21. フランジナット M8	× 1	22. フランジ付 M6×10	× 1	23. フランジナット M6	× 2	24. フランジ付 M6×25	× 1
							
25. 六角穴付 M8×40	× 3	26. 六角穴付 M8×50	× 2	27. 平座金Φ8	× 5	28. フランジ付 M5×12	× 1
							
29. タイラップ大	× 10	30. タイラップ小	× 10	31. 沈みプラグ	× 1	32. Φ6 ニップル	× 1
							
33. ファイルコントローラ ユニット	× 1	34. ファイルコントローラ ハーネス	× 1	35. ファイルコントローラユニット	× 1	36. ファイルセンサーハーネス	× 1
							
37. ファイルセンサー 延長ハーネス	× 1	38. コンプレッサプレート	× 2	39. 取付説明書 取扱書	各 × 1	40. 無鉛プレミアムステッカー	× 2
							

★本文中の純正品とは、自動車メーカーの標準装着品の意味です。

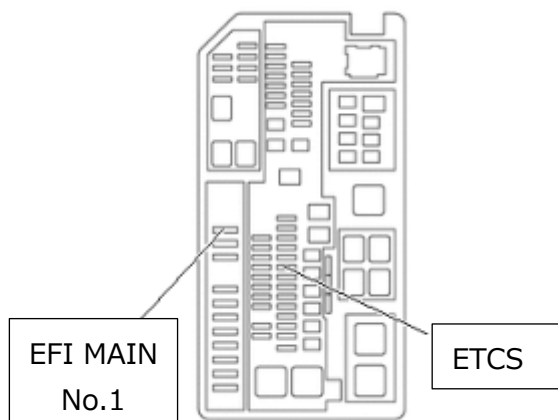
事前準備作業

※必ず最初に行ってください。

1. バッテリーのマイナス端子を切り離します。
2. フューエルタンクキャップを外し、フューエルタンク内の圧力を抜きます。

ダイアグコード消去方法

製品取り付け後にチェックランプが点灯した場合は(エンスト検出、リーン異常)、ダイアグコード消去を行ってください。
エンジンルームのヒューズボックス内の EFI MAIN NO.1 ヒューズ(25A)および ETCS ヒューズ(10A)を取りはずし、
60 秒以上経過後、ヒューズを接続して下さい。再度チェックランプが点灯しないことを確認して下さい。



純正部品取り外し作業

※ホースやクランプ、ボルト類等、多くの純正部品を
コンプレッサー本体に再度取付します。
破損・紛失しない様ご注意ください。

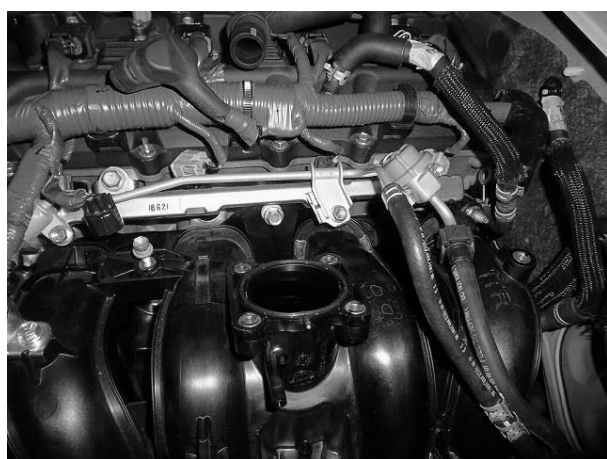


1. ラジエーター下部より冷却水を抜き取ります。
2. エアクリーナーBOX を取り外します



3. スロットルを取り外します。

※冷却水のホースが 2 本つながっています。
冷却水がこぼれる可能性があるため、
予めウエスで抑えながら外して下さい。



4. 純正インテークマニホールドに固定されている
全てのホース類を外します。

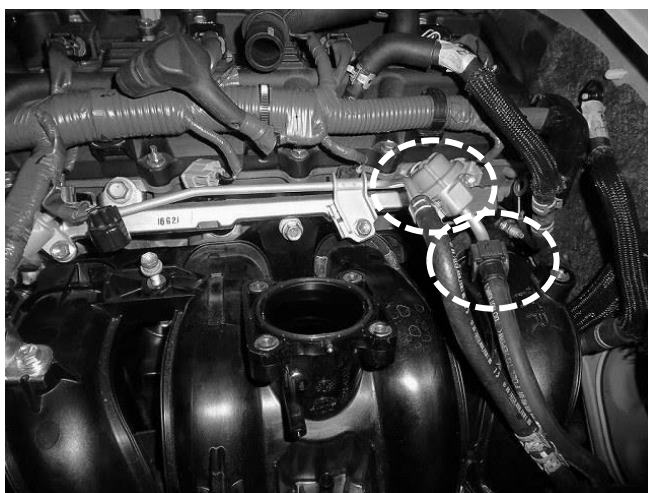
※マニホールドに付いている純正のステー類は
再使用しません。



※マニホールド右側にも 1 本短いホースがつながっている
のでご注意ください。



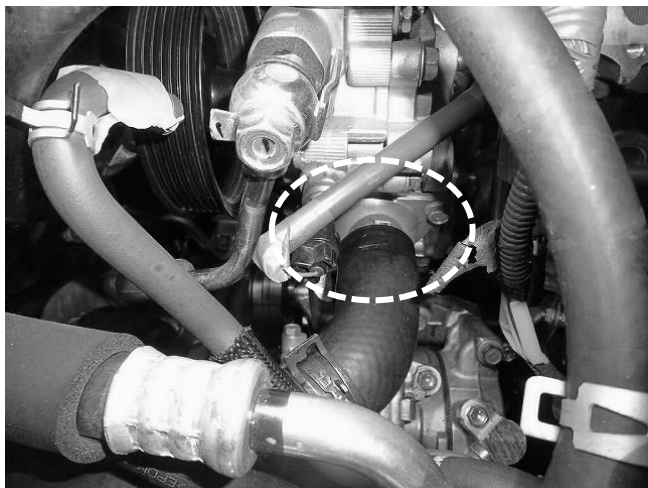
5. 丸点線部分のコンネクタを外し、
ハーネスクリップも外してハーネスの束をフリーに
してください。



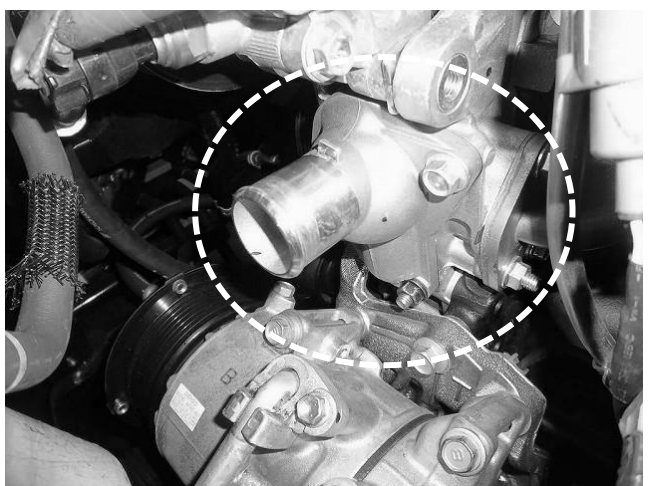
6. フューエルホースを 2 箇所外します。
※必ず最初の燃料流出防止の項目の作業後に行っ
て下さい。
※燃料がこぼれる可能性があります。
ウエス等で覆いながら作業を行って下さい。
※燃料配管を取り外した後は燃料を抜き取り、
ビニール袋でカバーするなど、漏れ対策を
行って下さい。



7. インテークマニホールドにつながっている配線、配管が
無いことを再度確認し、エンジンヘッドより取り外します。
※マニホールドが付いていた部位は養生を行い、
異物が入らないようにして下さい。
8. エンジンヘッドに付いているスタッドボルト 2 本を
取り外します。



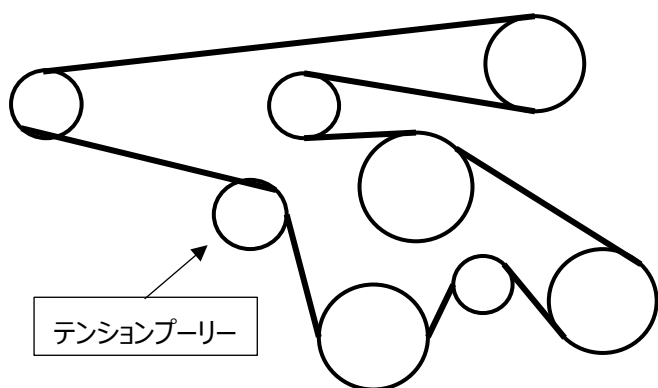
9. ウォータアウトレットホース(エンジン側)を取り外します。
 ※先にホース上部のコネクタを外して下さい。
 大量の冷却水があふれます。
 予め車体下側に受け皿やウエス類を用意してから
 ホースを外して下さい。

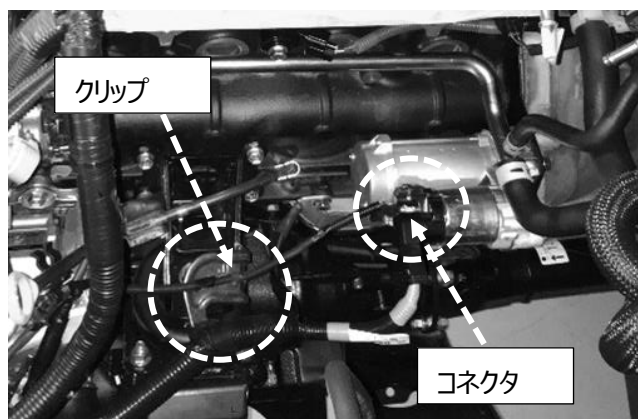


10. ウォータアウトレットパイプを外します。
 ※ここも同様に冷却水があふれますので、
 ご注意下さい。

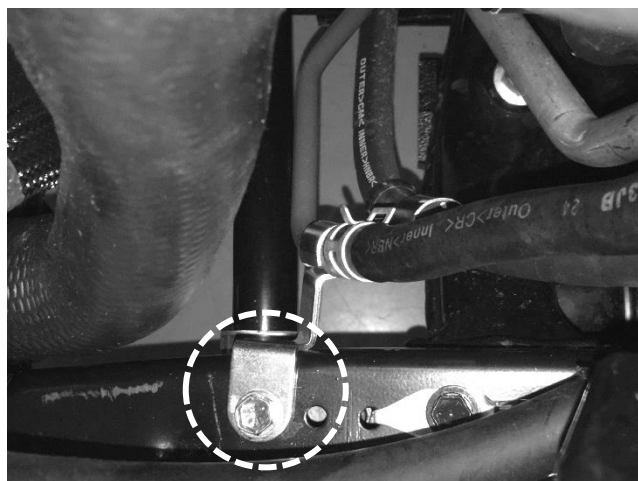


11. Vベルトを取り外します。
 オートテンションプーリーステアの丸印の六角に
 メガネレンチをかけて時計回りに回すことで、
 Vベルトのテンションを緩められます。





12. セルモーターに繋がるハーネスのコネクタ及びブラケットに取り付けられたクリップを外して下さい。



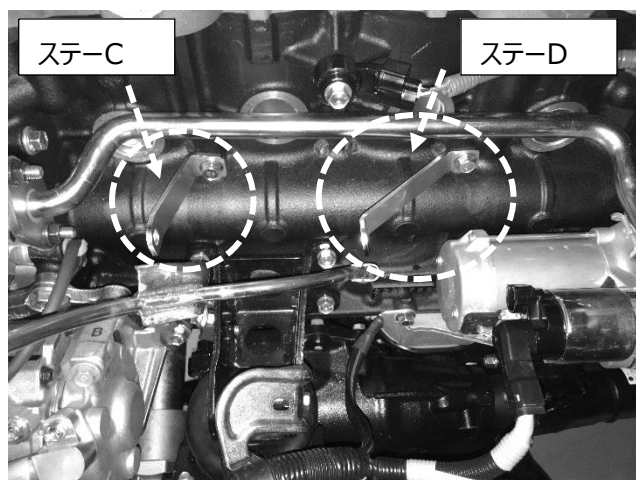
13. パワーステアリングのオイルラインと車体フレームに取り付けられているステアのボルトを取り外し、ステアが自由に動く状態にして下さい。

キット取付作業



1. インテークマニホールド右側につながっていた短いホースを取り外し、パーツリスト No.13 のΦ8 ホースを取付します。
取付後 No.14 のホースバンドで締め付けて下さい。

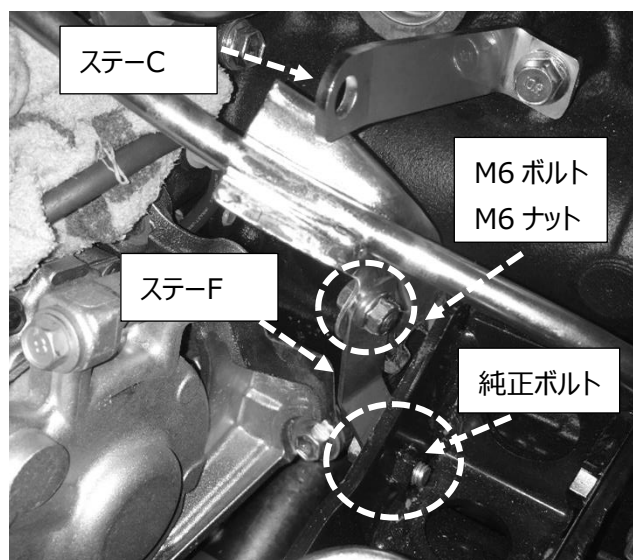
※取り外した純正のホースバンドは後工程のコンプレッサ側との接続で使用します。



2. エンジンブロックにパーツリスト No.8 ステアC 及び No.9 ステアD を No.15 の M8 ボルトを使用して、左図の様に取付します。

※ステア端部が角ばっている方をエンジンブロックに取付して下さい。

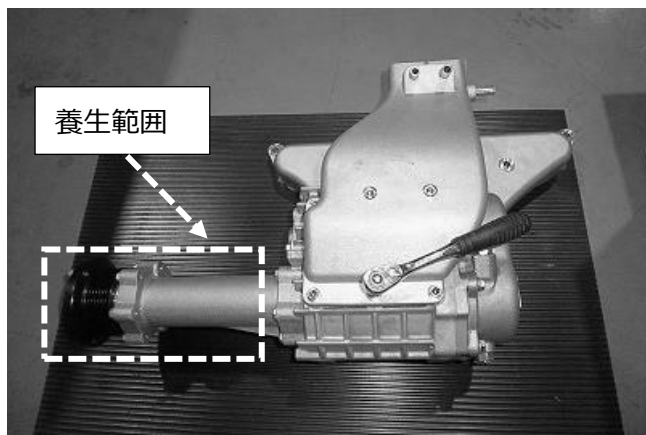
※この時点では仮締めの状態にして下さい。



3. パーツリスト No.10 のステアF をオイルレベルゲージ下側とエンジンマウントの間に取付します。
オイルレベルゲージの角度を変えて、ステア下側は純正ボルトで取付します。

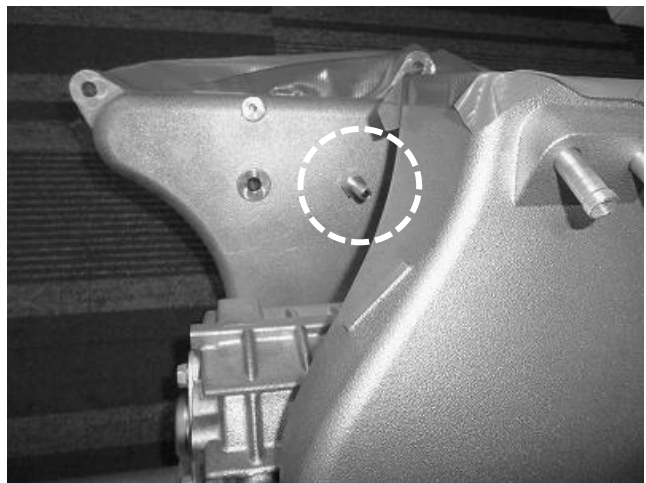
※オイルレベルゲージを多少曲げる加工が必要となります。オイルレベルゲージのブラケットとステアF をエンジンブロック側へ寄せてステアC と干渉しないように取り付けて下さい。

ステア上側はパーツリスト No.22,23 の M6 ボルトナットで取付して下さい。



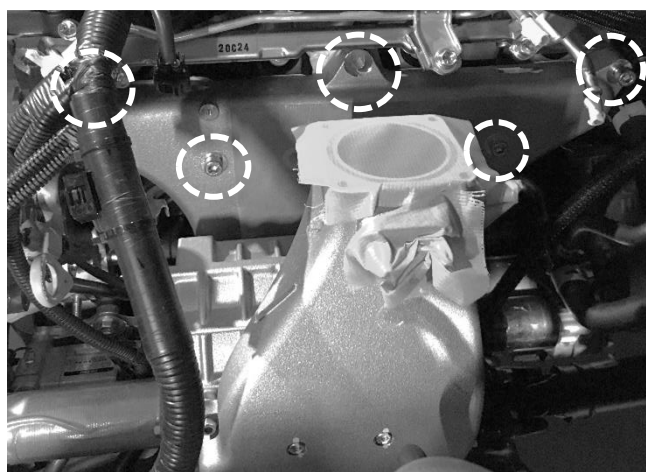
4. コンプレッサー本体に付いている全てのボルト類の締め付け確認を行い、新品のガスケットをインテークマニホールド溝部に取付して下さい。

※スロットルを取付する部位は養生し、異物が入らない様にしておいて下さい。
また四角点線部においても破損防止のため、養生して下さい。

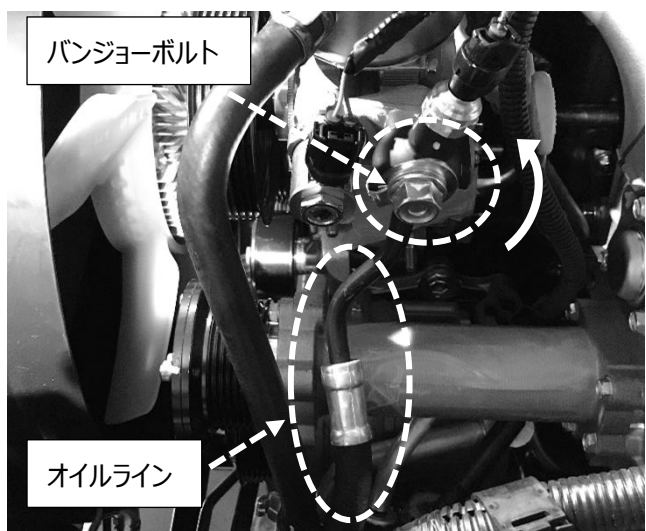


5. ブーストメーターを取付しない場合はパーツリスト No.31 の沈みプラグを、取付する場合はパーツリスト No.32 のΦ6 ニップルを、本体のインテークマニホールド左側に取付します。

※沈みプラグ、ニップルは、配管用シールテープをネジ部分に2～3周ほど巻いてから取付して下さい。
シールテープを巻かずに取付すると、ネジを傷めたり、密閉不良の原因となります。



6. 7の作業を参考にパワーステアリングのオイルラインを若干曲げた後、コンプレッサー本体のインテークマニホールドをパーツリスト No.25,26,27 のM8 ボルト、ワッシャを使用してエンジンに取付します。
※上側3箇所は長さ40mm、下側2箇所は長さ50mmのボルトを使用します。
※この時点では仮締めの状態にして下さい。
※ボルトは必ず手である程度ねじ込んでから、工具を使用して下さい。最初から工具を使用するとエンジンヘッドの雌ネジを傷める原因となります。

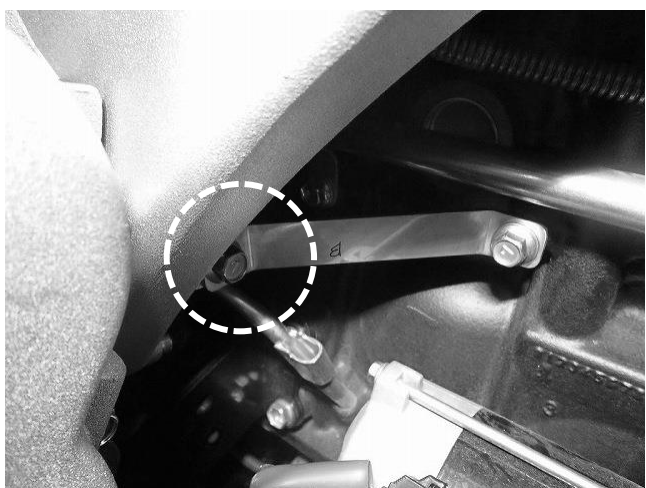


7. パワーステアリングのオイルラインを写真手前方向へ曲げ、コンプレッサー本体との干渉を防ぎます。
※この時点ではあまり大きく曲げず、コンプレッサー本体がエンジンルームに収まる程度に曲げます。
曲げすぎは破損の原因に繋がりますので注意して下さい。
※必要であればバンジョーボルトを緩めパイプ全体を矢印の方向に若干回転させた後、バンジョーボルトを固定し干渉を回避して下さい。
バンジョーボルトを緩めすぎるとフルードが漏れますので注意して下さい。



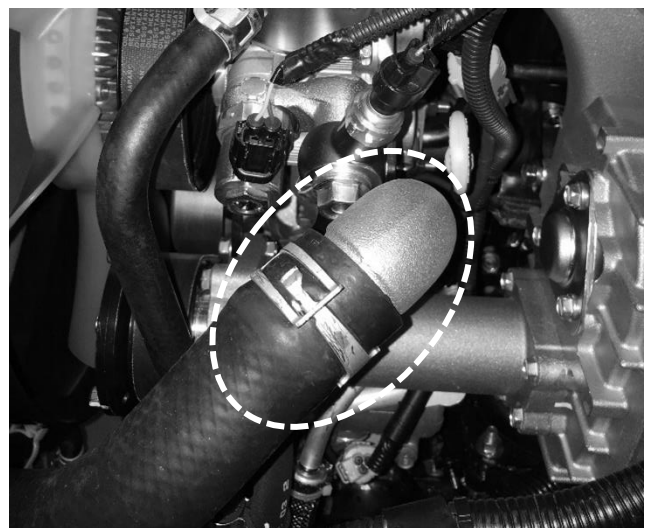
8. エンジンブロックに取付しておいたステーCを
パーツリスト No.15 の M8 ボルトを使用し、
インテークマニホールド下部左側のネジ穴に
固定します。

※この時点では仮締めめの状態にして下さい。



9. エンジンブロックに取付しておいたステーDを
パーツリスト No.15 の M8 ボルトを使用し、
インテークマニホールド下部右側のネジ穴に
固定します。

※この時点では仮締めめの状態にして下さい。



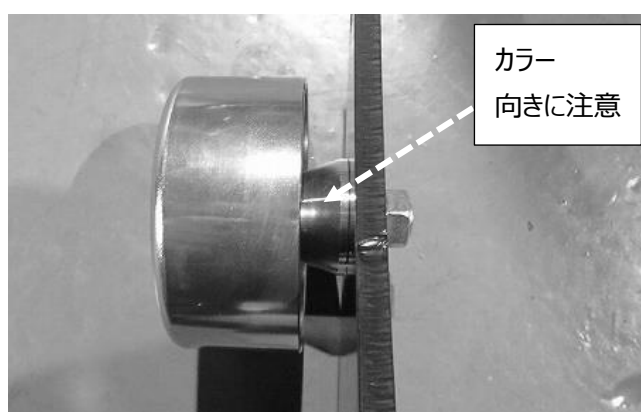
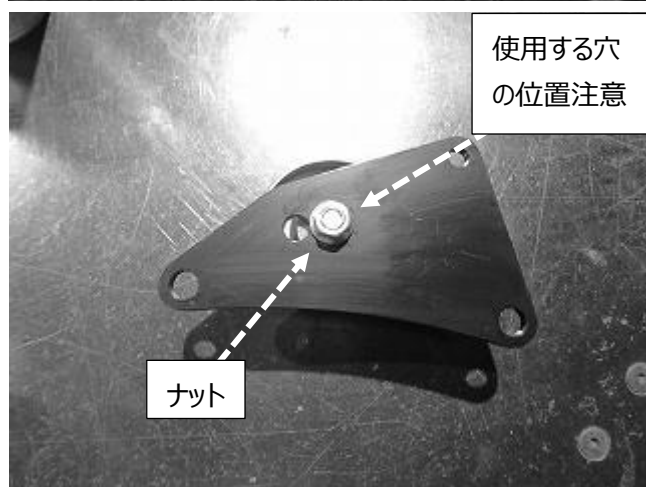
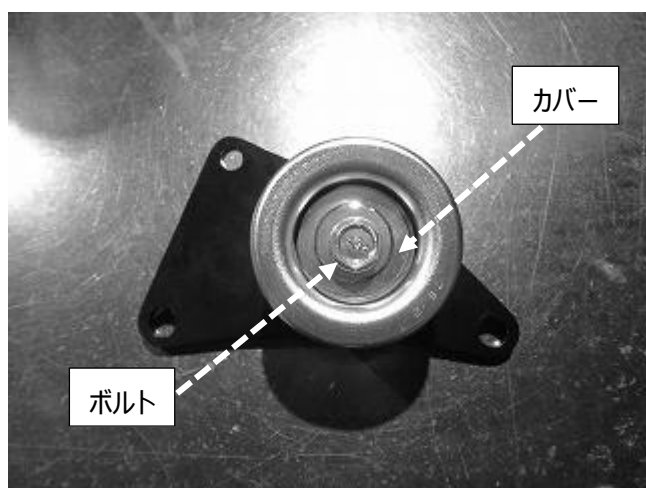
10. 新品の純正ガスケットを使用し、パーツリスト No.2 の
ウォーターアウトレットパイプを取付し、ウォーターホースを
差し込みます。

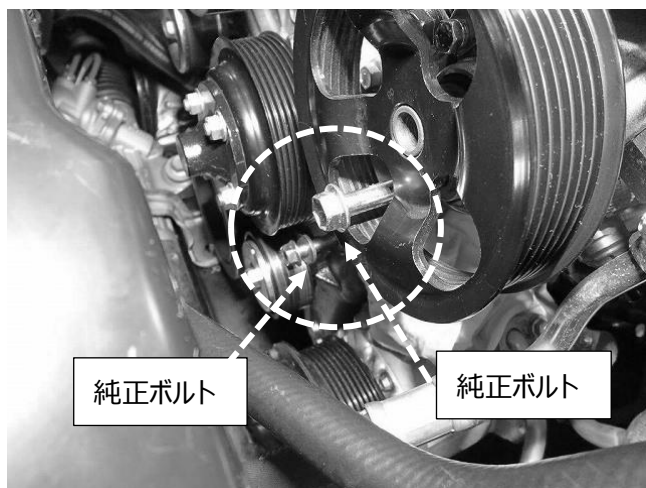
※ウォーターアウトレットパイプとパワーステアリングの
オイルラインが干渉していないか確認して下さい。
干渉している場合はオイルラインを若干曲げて
干渉を防いで下さい。



11. アイドルプーリーを組み立てます。
 パーツリスト No.4,5,6,7,18,19 を使用し、
 左図の様に組立を行って下さい。

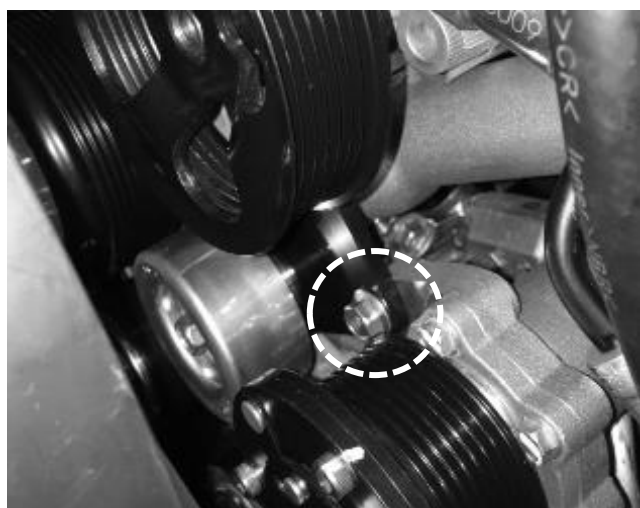
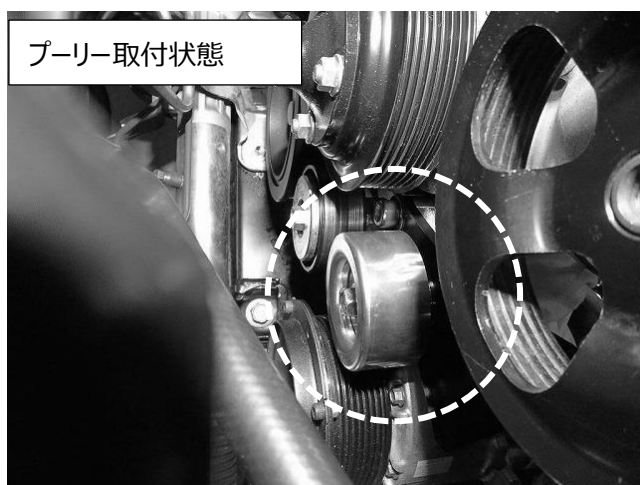
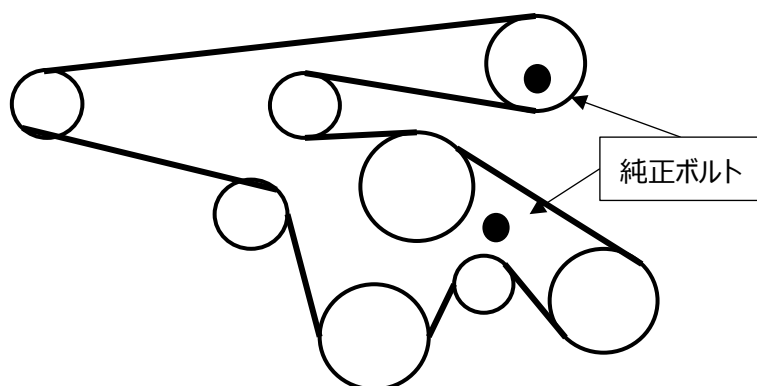
※作業しづらい形状のため、ブラケットをバイスに
 固定する等して、しっかり締め付けて下さい。





12. エンジンに付いている純正ボルト 2 本を外し、
パーツリスト No.16,17 のボルト,ワッシャを使用して、
組立したアイドルプーリーを取付します。

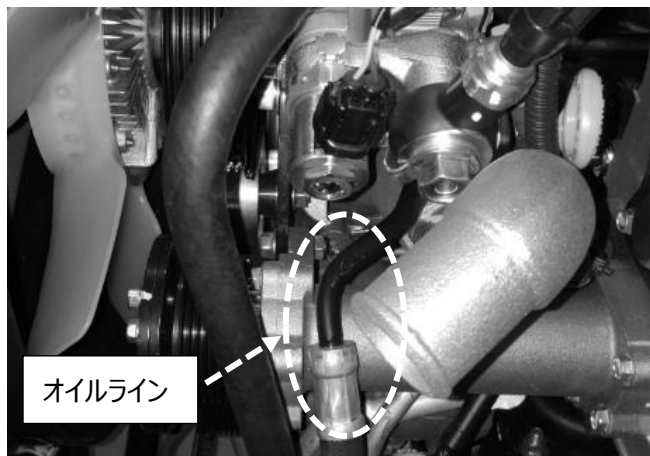
※この時点では仮締め状態にして下さい。



13. プーリーブラケットとコンプレッサー本体を
パーツリスト No.20,21 のM8 ボルトナットで
固定します。

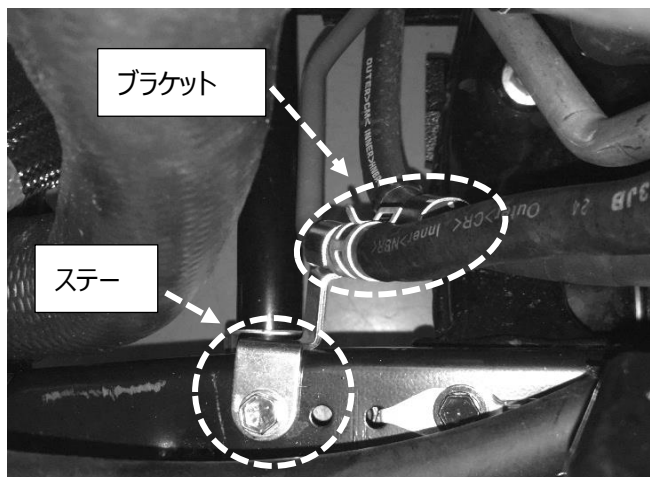
※この時点では仮締め状態にして下さい。

14. キット取付作業 4～15 の項目で
仮締めだったボルト類を、全て締め付けて下さい。
※エンジンヘッドと接続するボルト 5 本を最初に
締め付けて下さい。



15. ボルト類を本締め後、コンプレッサー本体とパワーステアリングのオイルライン及びウォーターアウトレットパイプが干渉しないようオイルラインを再度少し曲げます。

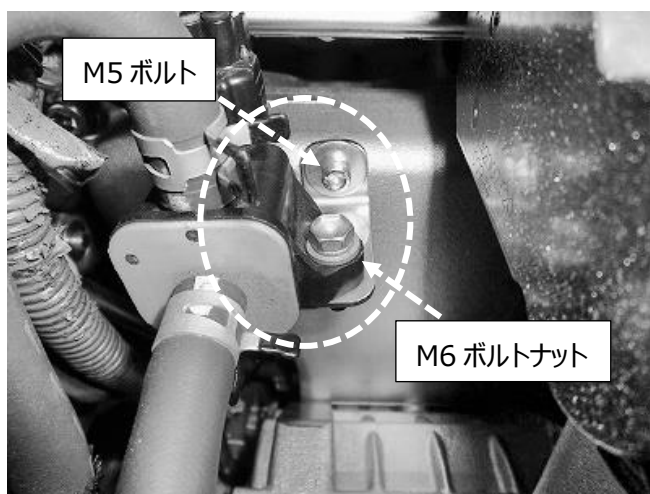
※干渉する部位がある場合は、保護チューブを巻く等して、損傷しないように対策して下さい。



16. 取り外したパワーステアリングのオイルラインと車体フレームに取り付けられているステアを固定して下さい。

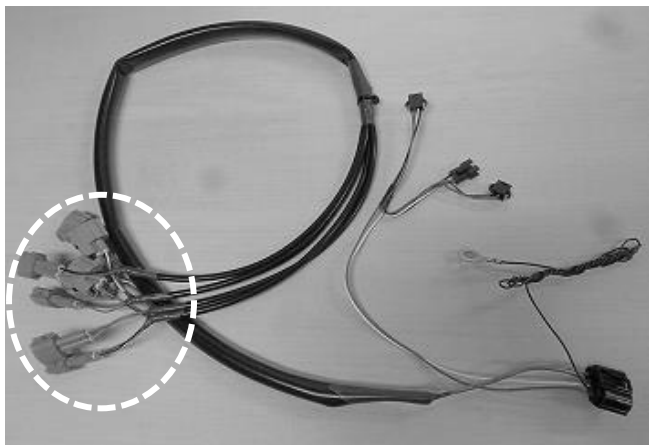
※ステアの穴位置が純正の穴位置と合わない場合はオイルライン側のブラケットを外しブラケットの位置を調整して穴位置を合わせて下さい。

オイルラインと干渉する部位がある場合は、保護チューブを巻く等して、損傷しないように対策して下さい。

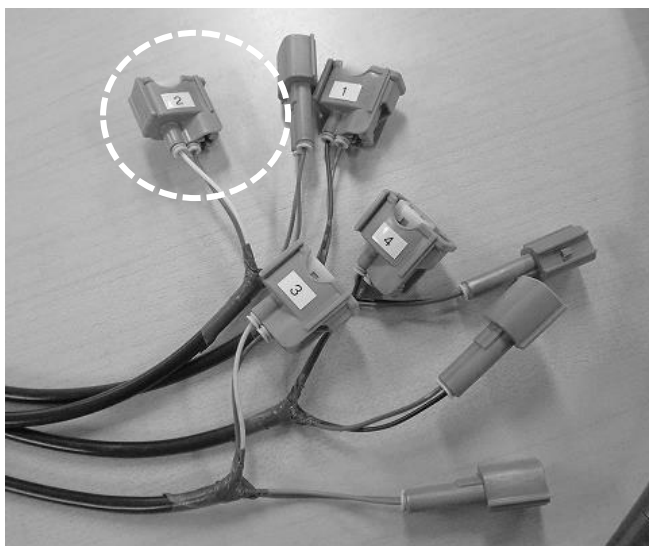


17. 純正部品取り外し作業の手順 4 で外したバキュームスイッチングバルブをインテークマニホールド左上部へ取付します。

No.28 の M5 ボルトを使用してインテークマニホールドへ取付後、パーツリスト No.11 のステア G へ No.23,24 の M6 ボルトナットを使用して取付します。



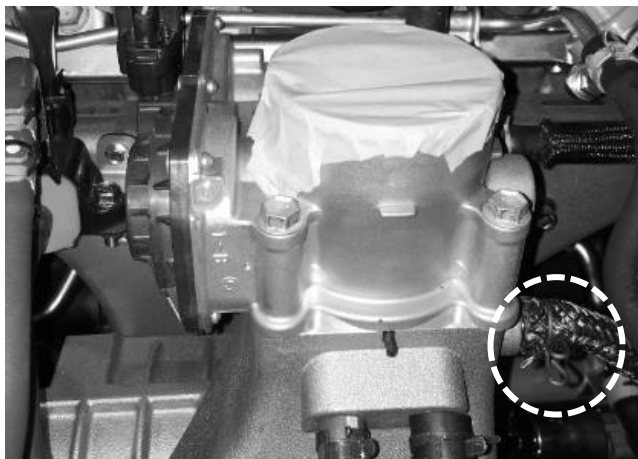
18. パーツリスト No.34 フューエルコントローラー
ハーネスを、インジェクタのコネクタ間に割り込ませます。



- ※各コネクタに 1～4 の数字が振ってあります。
それぞれ 1 番～4 番シリンダーのインジェクタの
コネクタに割り込ませて下さい。
1 番シリンダーがベルト側になります。

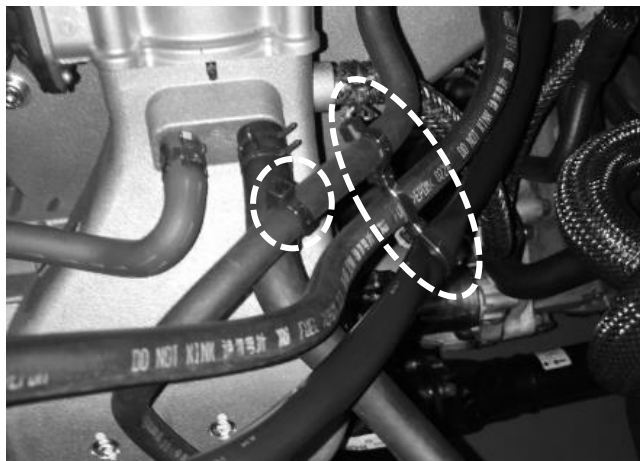


19. 新品のガスケット、純正ボルトを使用して、
スロットルをコンプレッサー本体に取付します。



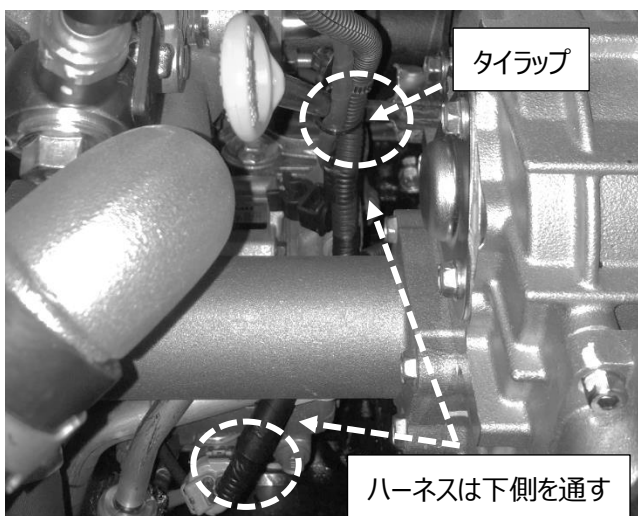
20. 純正インテークマニホールドとスロットルにつながっていたホース類・配線類をコンプレッサー本体、スロットルに取付します。

※キット取付作業の手順 1 で取付したΦ8 ホースはインテークマニホールド右側に純正ホースクランプを使用して取付して下さい。差し込みがきつい場合はホース内側にパーツクリーナーを吹いてから差し込んで下さい。ホースが長い場合はカットして下さい。



ホース類は基本的に純正と同様の取り回しになりますが、各部負荷がかからず干渉しない位置へ、タイラップ等を使用して束ねて下さい。

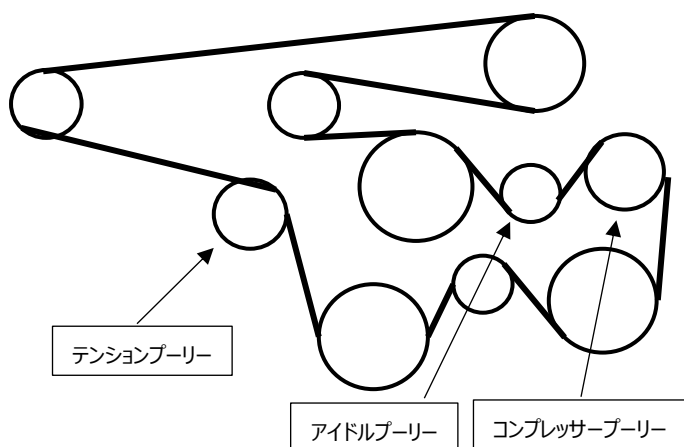
※フューエルホースやウォーターホースで干渉が気になる部位には、パーツリスト No.12 のホースプロテクターをカットせずに取付して下さい。カットすると、ほつれて使用出来なくなります。



21. 純正部品取り外し作業の工程 12 で取り外したセルモーターに繋がるハーネス及び純正インテークマニホールドを外す際に外したコネクタ類を接続します。

※ハーネスは左図のようにコンプレッサー本体の下側を通し、オイルレベルゲージのパイプにタイラップ等で固定して下さい。セルモーターに繋がるハーネスも同様にオイルレベルゲージのパイプ等にタイラップ等で固定して下さい。

※オイルレベルゲージ下部がコンプレッサー本体と干渉していないか、合わせて確認して下さい。



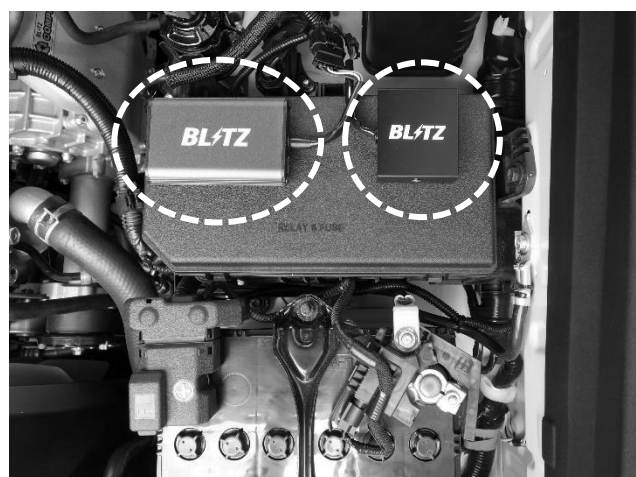
22. パーツリスト No.3 のベルトを取付します。アイドルプーリーとコンプレッサープーリーが追加になっているため、左図の様に取付して下さい。

※取り外し時と同様、オートテンションプーリーにメガネレンチをかけて、押し下げながら取付します。



23. 純正ボルト、クランプを使用して、サクションパイプを取付し、ホース類を接続して下さい。

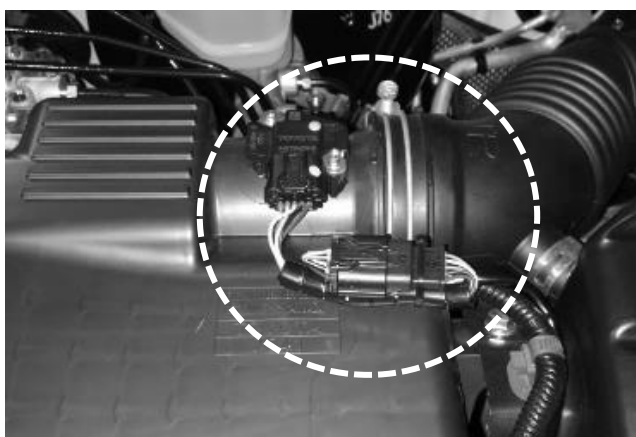
※この時点でもう一度各部コネクタ、配線、ホース等の取付忘れ、ボルト類の締め忘れが無い、本体と干渉する部品が無い等の確認を行って下さい。



24. パーツリスト No.33,35 フューエルコントローラー、エアフロコントローラーの本体を設置します。
左図を参考にそれぞれヒューズボックスの上に両面テープで固定して下さい。

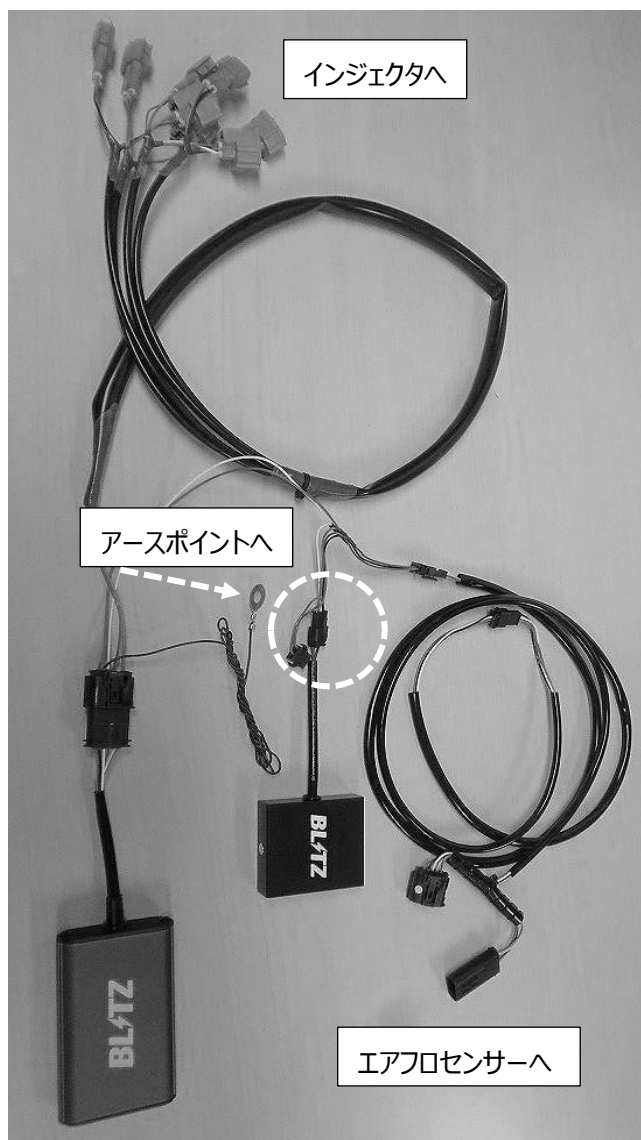


25. パーツリスト No.36 エアフロセンサーハーネスを
パーツリスト No.37 の延長ハーネスを使用して
エアクリーナーボックスに付いているエアフロセンサーの
ハーネスに割り込ませます。



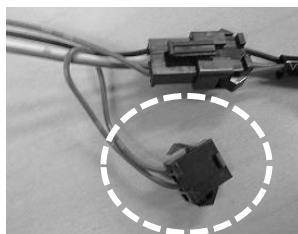


26. キット取付作業の手順 18 で取付した
 フューエルコントローラーハーネスのアース線を
 ヒューズボックス近辺にあるアースポイントに
 共締めします。



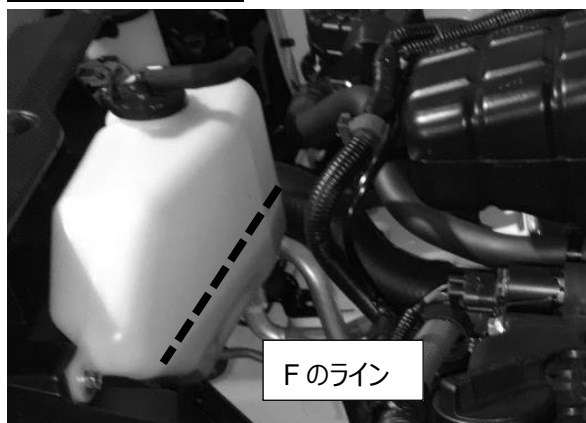
27. フューエルコントローラー、エアフロコントローラー、
 フューエルコントローラーハーネス、エアフロセンサー
 ハーネス、エアフロセンサー延長ハーネスのコネクタを
 接続し、配線を取り回します。接続の仕方は
 下図のようになります。間違いの無いようご注意ください。

※インジェクタに割り込ませた配線は瞬間的に
 大電流が流れます。エンジンルームの配線と
 結束するとノイズが乗り、エンジン不調の原因になる
 可能性がありますので、ホース等に結束して下さい。



※破線部の余っているコネクタはノーマル復帰用
 コネクタになります。チェックランプが点灯した際に
 接続する事で不具合原因の特定に使用します。
 キット取付時は接続しません。

冷却水のエア抜き



1. ラジエーター下部のドレンコックが締まっている事を確認してから、規定濃度の冷却液をラジエーター注入口から注入します。
2. リザーブタンクの F のラインまで規定濃度の冷却液を注入し、ラジエーターキャップ及びリザーブタンクキャップを取付します。
3. エンジンを一瞬かけて直ぐに止め、10 秒程度経過後ラジエーターキャップをはずし、ラジエーター注入口の水位が下がっていたら冷却水を注入して下さい。
4. 1～3 の作業をラジエーター注入口の水位が下がらなくなるまで、繰り返します。
5. ラジエーターキャップを締め、エンジンを始動させ、サーモスタットが開くまで暖機します。サーモスタットが開いてから、さらに数分間エンジンを運転し、冷却液を循環させます。
6. エンジンを止め、冷却液が冷えるまで待ち、ラジエーターキャップをはずして水位を確認して下さい。水位が下がっている場合は、再度冷却液をラジエーター注入口より注水し、サーモスタットが開弁するまでエンジンを暖機して下さい。水位が下がらなくなったら、ラジエーターリザーブタンクの水位が F ラインになるよう調整して下さい。

取付後の確認

■ エンジン始動前の確認

- ・ パイプ、ホース等の配管及び配線に間違いがないか確認して下さい。
- ・ ボルト、ナット類の締め忘れがないか確認して下さい。
- ・ ガソリンはハイオクガソリンが入っているか確認して下さい。

■ エンジン始動後の確認

- ・ コンプレッサーから異音等がないか確認して下さい。
- ・ 冷却水、燃料、オイル等の漏れがないか確認して下さい。
- ・ 軽く空ぶかしをおこない、Vベルト、コンプレッサー等に異常がないか確認して下さい。（ベルトのスリップ、歯とび等）
- ・ エンジンチェックランプが点灯していないか確認して下さい。点灯している際は、前述した燃料流出作業のダイアグコード消去作業を行って下さい。それでも消灯しない場合は弊社サポートセンターまでご連絡下さい。

※ランドクルーザー用のコンプレッサーには、弊社既存品のコンプレッサーで使用している電磁クラッチが付いておらず、常に過給を行う仕様となっています。コンプレッサーの特性上、アクセルペダルを踏んで過給がかかるまでのエンジンの吹け上がりに、タイムラグが発生する場合があります。低速走行中、アクセルペダルを離す→踏み直して再加速した時にも、同様の現象が発生する場合があります。
また、再加速時のトランスミッションのロックアップ機構の作動タイミングにより、タイムラグが大きく感じる場合がありますが、純正のトランスミッション制御によるもので、コンプレッサーの不具合ではありません。

メンテナンス

快適に運転していただく為、お車を運転する前には必ず日常点検を行って下さい。

尚、本キットを取付した後に維持、管理する項目については必ず実施して下さい。

同様の内容は別紙取扱書にも記載しています。よくお読みになり、適切な取り扱いをして下さい。

■ コンプレッサーキット装着時の維持、管理項目

- ・ エンジンオイルの定期的な交換（推奨 5 0 0 0 K m以内で交換）
- ・ エンジンオイルフィルターの定期的な交換（推奨 1 0 0 0 0 K m以内で交換）
- ・ ハイオクガソリンの使用（レギュラーガソリンは絶対に使用しないで下さい）

※キットには専用ハイオクステッカーを付属しています。給油口内側に貼り付けて下さい。

■ Vベルトのメンテナンスについて

本コンプレッサーキットでは、Vベルトを利用しコンプレッサーを回転させ、過給を発生させています。

定期的にVベルトの点検を行って下さい。

- ・ Vベルトの点検 推奨 5 0 0 0 k m 以内

※ Vベルトは、新品初期に一番伸びる特徴があります。新品 Vベルトを取付した際は 5 0 0 k m以内で張り・状態を点検して下さい。

- ・ Vベルトの交換 Vベルトの交換サイクルは車両の状態・運転の状況により異なります。Vベルトにヒビ、亀裂、歯とび等の劣化が確認された場合には交換をして下さい。

※ Vベルトが硬化しているとスリップしてしまう事があります。スリップしている状態ではコンプレッサー本来の性能を発揮できない場合があります。

推奨パーツ

■ プラグ NGK IRIDIUM MAX LFR7AIX-P 4 本

上記のプラグは純正品に対して熱価を上げています。純正プラグでも走行可能ですが、エンジンの熱量が上がるため、交換をおすすめします。

また、距離 30000km 以上プラグを交換せずに走行している場合は交換をおすすめいたします。

プラグの劣化により燃焼状態が悪くなり、コンプレッサー本来の性能を発揮出来ない場合があります。

純正部品について

万が一製品に不具合が合った際、検査や修理のため、外した純正部品を一時的に使用していただく場合がございます。

外した純正部品は、捨てずに保管することをお勧めいたします。

BLATZ